



アントワーン・ヴァトー Jean Antoine Watteau
『舞踏会の楽しみ』1717

雅宴画(フェート・ギャラント)の確立者アントワーン・ヴァトー随一の傑作『舞踏会の楽しみ』ロココ時代の華やかさを伝える作風である。



ジャン・オノレ・フラゴナール
Jean Honor Fragonard
『ブランコ』1767

まるでラ・シュレットの陽気さを感じさせる。



ジュール・シェレ Jules Chéret
『パントマイム』1891

鮮やかで激しい色彩表現がパントマイムの楽しさを伝え、キャラクターの表情も引き立てている。



ジュール・シェレ Jules Chéret
『1894謝肉祭オペラ座』1893

斜めに連続するキャラクターを徐々に大きく配置させ、空気遠近法との相乗効果を生ませている。



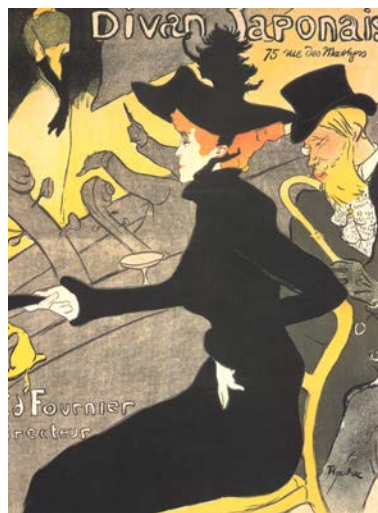
ジュール・シェレ Jules Chéret
『ヴァレンティノ舞踏場』1869

中央の赤を起点に飛び出すような躍動感を与え、上下のロゴデザインでも強調させている。



ジュール・シェレ Jules Chéret
『サクソレイヌ(安全灯油)』1891

シェレが描く女性像(ラ・シェレツェ)は健全で自信に満ちた明るいイメージで溢れて、近代の日常性を演出している。明るい微笑みが印象的である。



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
Henri de Toulouse-Lautrec
『ディヴァン・ジャポネ』1893

ロートレックの代表作の一つ。シェレと比較すると平面的であり、タッチの違いや色使いも異なる。左上のダンサーの首が描かれていないが、このような大胆な構図もロートレックの特徴である。



アルフォンス・マリア・ミュシャ
Alfons Maria Mucha
『ジスモンダ』1895

舞台女優サラ・ベルナルの芝居のために制作した「ジスモンダ」のポスター。当時のパリにおいて大好評となり、一夜にしてアル・ヌーヴォーの旗手としての地位を確立した。